

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和3年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 小田 敏三	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	http://aizuyaichi.or.jp/
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	aizu-81@athena.ocn.ne.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①	會津八一記念館管理運営事業						
事業概要	(概要) 市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。						
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 名誉市民會津八一の内外に誇るべき書作品を紹介することは、市の文化的財産の豊富なことを認識してもらう手段。文化事業への理解と関心を高める。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	43,646	43,516	46,287	40,470
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
年間入館者数	R3	人	4,000				
	R2	人	4,000	3,453	感染症発生による行動の変化(自粛)		
	R1	人	8,000	7,466	ほぼ達成。1～3月、特に3月はコロナ感染発生で例年を大きく下回った。		
	H30	人	8,000	7,845	ほぼ達成		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
年間入館料	R3	千円	1,500				
	R2	千円	1,000	922	感染症拡大による入館者減少		
	R1	千円	3,000	2,051	感染症発生の影響を受けた。		
	H30	千円	3,000	2,567	目標額に見合う入館者に及ばなかった		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
	R3						
	R2						
	R1						
	H30						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価			作品等を適切に保存、管理を行うことで、市の財産が守られた。				

2. 主要事業

事業名②	展示事業						
事業概要	<p>(概要) 新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に展示。年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。</p>						
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 孤高の生き方を貫き、優れた作品を残した八一の業績を知ること、新潟の文化的土壌の豊かさを再認識し、そのことを誇りとすることができる。</p>						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（予算）
公益事業	自主事業	支出額	千円	7,182	7,171	3,977	7,930
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
特別展 (入館者数)	R3	人	3,000		10月～12月に実施		
	R2	人	3,000	0	実施せず		
	R1	人	3,000	2,300	富本憲吉という陶芸分野の人物を取り上げたことが関心と呼んだ。		
	H30	人	3,000	2,219	中村屋サロン美術館作品を借り、絵画や彫刻といった美術に関心ある層を取り込めたと思う。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
企画展 (入館者数)	R3	人	5,000				
	R2	人	5,000	3,453	コロナ感染症の発生と、その拡大懸念による自粛・休館等		
	R1	人	5,000	5,166	国民文化祭期間中、天皇皇后両陛下がお越しになったことが注目された。		
	H30	人	5,000	5,626	秋のテーマ「奈良・仏像」は時代に関係なく高い関心と呼ぶ。		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R3						
	R2						
	R1						
	H30						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		<p>所管課としては、市報等で展覧会の広報を行った。 アンケート結果によると、展覧会の満足度が96%と高く、會津八一の業績を知ってもらうことができた。</p>					

2. 主要事業

事業名③	文芸講演会事業						
事業概要	(概要) 4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。						
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業への関心を高め、文化的土壌を育むとともに文化・歴史に対する市民の誇りを高める。専門家の話を聞くことで市民の文化的教養が深まり、市の文化的厚み（文化度）が高まる要因となる。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（予算）
公益事業	自主事業	支出額	千円	716	824	82	500
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
開催数	R3	件	6				
	R2	件	3	2	感染症の広がり中止		
	R1	件	6	6	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。		
	H30	件	7	9	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
聴講者数	R3	人	600				
	R2	人	500	177	開催中止の影響		
	R1	人	1,000	518	3月実施予定の講演会を、コロナ感染の発生で中止せざるを得なかった。館外講座（八一の作品鑑賞・解説会）も同様に中止。		
	H30	人	1,000	865	講演内容によっては100人に満たない場合もある。		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R3						
	R2						
	R1						
	H30						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価	所管課としては、市報等でイベントの広報を行った。 4回の予定が2回になったが、前年度のイベント動画配信を行うなどの工夫で、多くの方文化的教養が深まる一助となった。						

2. 主要事業

事業名④		販売事業					
事業概要	(概要) 特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、往復書簡集（會津八一のやりとりした書簡の活字起こし）の制作販売。						
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 所蔵作品・資料を、展示とは別の形態（書籍、図録、商品デザイン）で活用することは、文化的財産への関心を別の角度（購入・読書）から高めることにつながり、市の文化事業理解へとつながる						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度（予算）
収益事業	自主事業	収入額	千円	2,716	1,828	1,585	2,000
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
販売事業	R3	千円	2,000				
	R2	千円	2,000	940	感染症発生に伴う人の動きの減少、それによる入館者の減少		
	R1	千円	2,000	1,267	前前年度商品化した扇子以降、新規開発がおこなわれているのも一因。		
	H30	千円	2,300	1,707	名目をつけて割引販売をすることがあるが、そうそう売れるものではない。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
鑑定事業	R3	千円	1,000				
	R2	千円	1,000	645	感染症の発生に伴い、年2回の開催を1回に減らしたため。		
	R1	千円	1,100	561	依頼数が少なかった。		
	H30	千円	1,000	1,009	達成。鑑定依頼数が多かった。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
	R3						
	R2						
	R1						
	H30						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		図録を高校へ普及材として高等学校へ贈呈するなどし、文化的財産への関心を高める機会を設けることができた。					

2. 主要事業

事業名⑤	普及活動事業						
事業概要	<p>(概要) 會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしってもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。</p>						
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業の厚み、多彩さを印象付ける。また専門学芸員を擁すること、その知識経験を館外で発揮するというのも、市の文化的土壌の豊かさを認知してもらう契機となる。</p>						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,775	2,677	1,956	2,650
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数	R3	点	170				
	R2	点	150	165	さらに認知度が深まり、写真発表への意欲を刺激した。		
	R1	点	150	152	認知され普及しているから。		
	H30	点	160	147	応募人数は前年同数。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
館長・学芸員の出前講演会、講座回数	R3	回	7				
	R2	回	3	6	幸い公民館・学校からの要請があった。要請を恒例化してくれている団体もある。		
	R1	回	10	7	神林前館長が体調不良で活動に支障をきたしたこと、コロナの影響で開催が中止になったこと。		
	H30	回	11	8	胎内市、秋葉区荻川地区など、ほぼ恒例のように講座を開いてくれる学校・社協団体がある半面、市内中学校には呼びかけをしているものの、年間行事計画の制約があっがか声を掛けてくださるところはない。定例化しているのは胎内市内の小学校のみである。		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R3						
	R2						
	R1						
	H30						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価	<p>所管課としては、市報等で広報を行った。 コロナ禍にも関わらず、写真コンテストの応募数は前年度を上回り、會津八一の認知度が高まった。</p>						

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

令和3年7月1日 現在 (単位：人)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
役員数		11	11	11	11
常勤		0	0	0	0
市派遣					
市職員OB					
プロパー役員					
他団体からの派遣					
非常勤		11	11	11	11
市兼任		3	3	3	3
市職員OB					
他団体兼任		8	8	8	8
その他					
職員数		5	3	3	3
常勤		2	2	2	2
市派遣					
市職員OB					
プロパー職員		2	2	2	2
他団体からの派遣					
非常勤		3	1	1	1
市兼任					
市職員OB					
他団体兼任					
その他臨時・嘱託等		3	1	1	1
見直し等の取組み					

(2) 職員の状況（市派遣職員を除く。）

令和3年7月1日 現在 (単位：人)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
職員の状況	管理職	2			
	一般職	3	3	3	3
	合計	5	3	3	3
年齢構成	20代以下				
	30代	1	1	1	
	40代	1	1	1	2
	50代				
	60代以上	3	1	1	1
	合計	5	3	3	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(予算)
報酬・給与等	20,264	21,162	18,791	19,089
内 市職員分	0	0	0	0
役員	7,268	7,268	5,541	5,400
常勤				
内 市職員分				
非常勤	7,268	7,268	5,541	5,400
内 市職員分				
職員	12,996	13,894	13,250	13,689
常勤	10,371	11,221	10,624	10,990
内 市職員分				
非常勤	2,625	2,673	2,626	2,699
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	5,186	5,611	5,312	5,495
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
一般正味財産増減の部	経常収益	50,150	48,550	50,085
	基本財産運用益	3,184	3,184	3,184
	特定資産運用益	1	1	1
	受取会費			
	事業収益	44,194	42,692	44,119
	自主事業収益	3,781	2,813	2,040
	受託事業収益	40,413	39,879	42,079
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,771	2,673	2,781
	経常費用	54,158	49,506	49,159
	事業費	52,575	48,256	48,300
	公益目的事業費	43,294	40,001	40,306
	収益目的事業費 (自主事業費)	4,022	2,988	2,555
	(受託事業費)			
	法人会計	5,259	5,267	5,439
	管理費	1,583	1,250	859
	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 4,008	▲ 956	926
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	▲ 4,008	▲ 956	926	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	▲ 4,078	▲ 1,026	856	
一般正味財産期首残高	40,478	36,399	35,373	
一般正味財産期末残高	36,400	35,373	36,229	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高	238,124	237,097	237,953	

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	20,264	21,162	24,342
役員分	7,268	7,268	6,941
職員分	12,996	13,894	17,401

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産の部	資産の部合計	249,978	248,790	259,987
	流動資産	13,530	11,591	18,661
	現金預金	2,372	966	8,558
	未収金			
	有価証券			
	その他流動資産	11,158	10,625	10,103
	固定資産	236,448	237,199	241,326
	基本財産	200,843	200,696	200,549
	特定資産	28,668	29,371	33,068
	その他固定資産	6,937	7,132	7,709
	有形固定資産	6,321	6,321	6,703
無形固定資産	616	811	1,006	
その他投資等				
負債の部	負債の部合計	11,854	11,693	22,034
	流動負債	3,699	2,836	9,061
	短期借入金			
	その他流動負債	3,699	2,836	9,061
	固定負債	8,155	8,857	12,973
	長期借入金			
その他固定負債	8,155	8,857	12,973	
正味財産の部	正味財産の部合計	238,124	237,097	237,953
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	36,400	35,373	36,229
	代替基金			
その他一般正味財産	36,400	35,373	36,229	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		249,978	248,790	259,987

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
市財政支出等の合計	43,726	43,596	46,367
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	43,646	43,516	46,287
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
純資産	238,124	237,097	237,953
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拠出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	238,124	237,097	237,953

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度
経常損益		▲ 4,008 千円	▲ 956 千円	926 千円
自己資本比率	純資産	95.3 %	95.3 %	91.5 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	365.8 %	408.7 %	205.9 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	96.0 %	96.4 %	96.2 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産	39,724 千円	38,697 千円	39,553 千円
	－資本金（基本金）			
公益目的事業比率	公益目的事業費	88.5 %	90.4 %	92.2 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.18	0.17	0.17
	遊休財産額			
資金運用	● 有 ○ 無	→	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。	○
基本財産としての 有価証券の保有			② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。	○
	③ 資金運用に関する情報収集に努めている。	○		
	④ 元本割れのリスクはない。	○		

（2）団体の自立性

指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	87.2 %	89.8 %	92.6 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	8,839 千円	14,231 千円	14,706 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	▲ 802 千円	▲ 319 千円	309 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	2.9 %	2.5 %	1.7 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	317 千円	417 千円	286 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	40.4 %	43.6 %	48.6 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	35.9 %	34.3 %	28.5 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況			
●	有	計画名称 { 會津八一没後70年に向けて/存在意義を広め、存在価値を高める—生活様式変化の中で }	計画5年 令和 2~6 年度
概要・数値目標			
<p>コロナ禍をどう克服するか、どう付き合っていくかで入館者数の達成など実現性については不確定要素がある。會津八一は歴史上の人物となり、その業績を伝えていくことは、新潟市民にとってますます重要になってきた。書家で俳優の松村雄基氏も「生きる活力を与えられる」と評する人と作品を市民にも再評価してもらいたい。</p> <p><入館者>令和2年は3,435人でそれまでの2年が7,000人台だったのを大きく下回った。今年度以降、コロナ禍の影響がどこまで及ぶか。「リモート」「オンライン」が仕事や趣味の世界に広まった。それを踏まえ、記念館における新しい鑑賞方法の研究も課題だ。入館者数が企画(展示)内容に左右するのは否めないが、書家である館長の新しい視点で、常に聞かれる「八一の書をもっと見たい」という声にこたえ、何度も来てくれているファンを引き付けると同時に「新規」の開拓が課題。「新規の一つ」が中学生だ。この4年間に来館の機会がなかった市内中学校の約半数の30校近い学校に働きかけ「<未>来館」を解消が当面の課題。</p> <p><図録と在庫>特別展ごとの図録が在庫の大きな部分を占めている。販売価格との兼ね合いで、ある程度の部数を作ってきたが、その体裁を含め発行形態(価格・部数)を研究し、いわゆる在庫の重しにならないようなものへと変える。同時に積みあがった図録の在庫を必要分を残して学校現場へ配布する。ただ、図録出版物は「資料」であり「普及」のための重要な道具だ。ある程度の在庫は「不良」とは位置づけない。</p> <p><普及>普及材としては冊子「奈良京都の歌碑」に続き「県内の歌碑」を令和3年度内に発行する。さらに「全国の歌碑」をまとめる。</p> <p><財産整理と活用>膨大な収蔵品の整理も喫緊の課題。館蔵品図録の作成は研究鑑賞資料として、後世への責務と考える。令和3年度はまず「名品50選」</p> <p><対外関係>縁ある奈良京都との親交を維持発展させる。歌碑建立や交流会だ。會津八一没後70年までの間に克服・実現すべき課題とその具体策については別紙。</p>			
	無	未策定理由	

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
●	有	就任時期 年度~	● 有 依頼時期 平成18 年度~
		依頼先職種 { }	依頼先職種 { 税理事務所 }
●	無		無

③ 事務処理改善の取組み			
●	有	取組内容 平成29 年度~	}
	無	窓口で駐車券の要望が多いことから、メディアシップの2つの駐車場(1時間440円と同400円)の1時間無料券(1,000円以上の記念館商品購入者)と2時間券(3,000円以上の購入者)を進呈。取り扱い商品を紹介するチラシを作製し、見やすいように受付に掲示。	

④ 人材育成の取組み			
●	有	取組内容 平成17 年度~	}
	無	市や民間の生涯学習事業(市政トーク便りなど)の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけではなく、関連人物や周辺事項についても幅広い知識を習得してきている。それらが、會津八一の業績普及につながっている。上部団体の研修会にできる限り参加したり、県外博物館の見学や交換展で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。また新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに掲載をお願いしている。	

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況				
●	有	策定時期 平成12 年度~	団体ホームページ掲載	
		規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }		
	無	未整備理由		
		役員は無報酬		
●		定款等		21 年度~
		事業内容		21 年度~
		役員名簿		21 年度~
		役員報酬		年度~
		事業報告		21 年度~
		正味財産増減計算書		21 年度~
		貸借対照表	21 年度~	
		事業計画書	21 年度~	
		予算概要	21 年度~	

改善対応区分
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B:改善の取組の効果が始まっている
 C:改善の取組に着手
 D:改善の取組に向けて検討中
 E:今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。					
改善に向けた取組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	隣接「文化の記憶館」との一体的運営を検討					
	取組みによる成果	協議半ばである					
	改善・対応区分	A	B	C	●	D	E
	実施事項	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	増員の検討	計画	増員の可否の検討	組織の在り方検討	組織の内容を決定		
	実績	組織人員の検討事案発生	検討中				
	進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 組織運営の在り方を含め協議中					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 増員が可能かの検討					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 一体的運営の見通しがついた段階で、特に財政的裏付けの面から可能性を協議。					

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。						
改善のために取り組んだ内容		會津八一作品自体への関心を高めるため、企画展（著名人・文化人による「私の好きな八一の作品」）の展示作品の中から入館者に「私の好きな八一の書」を選んでもらった。						
取組みによる成果		これまで個々の作品への思いを尋ねることはなかったが、具体的にその作品がなぜ好きか、八一のどんところが好きかをいわば肉声として得ることができた。八一の書家として独自性（業績）を再認識してもらうことができた。						
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
改善に向けた取組み 評価指標	実施事項	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度	
	写真 コンテスト	計画	学生への応募呼びかけ、部門賞の設置	文芸関係の部活生徒への応募働きかけ	応募170点	応募180点		
		実績	中断	未着手				
	進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 ジュニア（学生）部門設置は主催者、審査委員間の同意事項にならず。						
	今後の課題	【取組み状況を踏まえた今後の課題】 応募年齢層の拡大を目指す。						
	課題への対応	【今後の課題への対応】 開始以来15年変更のない応募規定を、応募者増加のために変更が可能か（どう変更したら増えるか）を審査員と検討						
	その他	計画	展示テーマ（酒）に沿った体験学習（3月）	八一祭トークイベント	八一祭トークイベント、館長講座	八一祭トークイベント		
		実績	中止	中止				
		進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 元年度、2年度の計画はどちらも感染症の発生により中止					
		今後の課題	【取組み状況を踏まえた今後の課題】 3年度は八一祭トークイベントは実施確実。館長による連続講座の開始					
課題への対応		【今後の課題への対応】 来年度以降の八一祭の在り方を検討する。トークイベントの継続可能性も吟味。館長による連続講座は好評で、4年度の開催も視野に検討する。						

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。					
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	シンボルマークを全国公募					
	取り組みによる成果	個人141人、県外中学校生345人が応募。これらの人が新潟市と會津八一に関心を持ってくれたことは間違いない。					
	改善・対応区分	A	B	●	C	D	E
	実施事項	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	周年事業の実施	計画	生誕140年事業の構想	生誕140年事業内容	140年記念事業実施と没後70年事業の検討	名品50選刊行記念展の開催	
		実績	着手	決定			
		進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 開館45周年を記念してシンボルマークを全国公募し制定。會津八一への関心を高めた。140年記念では「名品50選」刊行決定。				
今後の課題		【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 名品集に続く収蔵品目録的な書籍の刊行。収蔵品を目に見える形で残すことが、将来への責務					
課題への対応		【今後の課題への対応】 「50選」に続きどのような刊行物が可能か、内容の検討					

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。					
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	新聞一面に収益の一つ鑑定料収入のため作品募集を出し、夕刊にも取扱商品の広告を出した。					
	取り組みによる成果	鑑定申込者の増加					
	改善・対応区分	A	B	C	●	D	E
	実施事項	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	出版	計画	歌碑写真集制作	歌碑写真集県内版制作	歌碑写真集県内版、収蔵作品集		
		実績	増刷	発刊に至らず			
		進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 県内版製作に着手したが、刊行は翌年度に。				
今後の課題		【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 歌碑写真集の県内版を刊行。名品集の刊行					
課題への対応		【今後の課題への対応】 どちらも3年度内の刊行を急ぐ。					
発信活動	計画	テレビCM	テレビCM、新聞広告	CM、新聞広告	テレビCM、新聞広告		
	実績	特別展テレビCM	新聞第1面				
	進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 2年度は特別展を中止したため、テレビでの広告はなし。鑑定会、シンボルマーク募集広告を新聞1面に展開。鑑定会の個人応募に結び付いた。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新聞広告、テレビCMの効果を具体的に測る方法の確立。日報夕刊読者への特典に対する応募者減少の食い止め。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 「広告を見た」との申告で特典が得られるという新聞広告を出す。その内容の検討、制作。そのことで広告効果を把握し入館増に結びつける。					

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。				
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	展示に関連する以外（講演会、講座、クイズ）でもアンケートを取り、展示以外の要望（講演会講師、イベント内容）を把握することを目指した。				
	取り組みによる成果	観覧者がどの作品を最も愛好するかが判明。今後の展示に生かせる。また、館長講座の開始に結び付いた。				
	改善・対応区分	A	B	C	●	D E
	実施事項	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	アンケートの回収率向上	計画	回収率8%	回収率9%	回収率9%	
		実績	9.6%	8.70%		
進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 2年度全体は減少したが、29年度6.1%、30年度7.5%に比べても上々の数字。しかも冬季展入館者（1157人）に対する回答（105人、9.1%）に作品アンケート（83人、7%）を加えると、延べ188人（枚）の回答があった。回答にはプレゼントありとすることで、回収率もいい。					
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 全員に絵はがき、クイズ回答者には記念館の商品というやり方を継続する。クイズの設問内容に工夫の要あり。					
課題への対応	【今後の課題への対応】 プレゼント内容の刷新、クイズ作成					

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。				
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	色紙・図録とも単なる商品ではなく文化的資料（財産）であると位置づけ、普及材としての活用で在庫の削減を進める。そのために学校、會津八一と関係深い奈良の寺院等に寄贈を開始した。それとともに割引販売などにも力を入れる。				
	取り組みによる成果	在庫部数の減少				
	改善・対応区分	A	B	C	●	D E
	実施事項	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	販売促進	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増
		実績	1,267千円（26%減）	940千円（26%減）		
進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 学規の額装品は2～5月には安定した需要がある。短歌の解説本は写真コンテスト応募者が購入することが多いが、限られている。					
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 価格を下げても売り上げ増を図る。扱う商品の周知					
課題への対応	【今後の課題への対応】 普及活動の一環として新聞広告を積極的に活用する。展示期間中何回か掲載される展覧会広告にこれまで入れることはなかった商品販売の文言を入れる方向で検討する。ホームページの「グッズ一覧」以外に、お知らせ欄に「割引販売」を告知し目新しさを出す。					
既存在庫削減	計画	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	
	実績	10,606千円（5%減）	9,929千円（6%減）			
	進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 在庫については図録・色紙は普及材と考えることで税理士事務所とも合意。色紙・図録の寄贈を開始した。				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 寄贈を中心とした普及を働きかける相手の発掘				
課題への対応	【今後の課題への対応】 中高以外にも関連企業への寄贈を進める。					

改善指示事項		中長期計画を補うものとして、事後的な評価ができるよう、客観的な成果指標を設定することが必要である。						
改善のために取り組んだ内容		過去の図録の削減計画を示した。アンケート回収率の向上。						
取り組みによる成果		在庫削減効果は今後に期待。アンケートは絵はがきプレゼントなどで回収率アップ						
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
		市内中学校来館校数	計画	—	—	訪問5校来館10校	10校	
			実績	17校	1校			
		進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 2年度は来館3校、うち中学校1校					
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 2年度は全く参考にならない。春は市内巡検と称して様々な施設を生徒は回るが、それ以外、学校として見学施設に選ぶような呼びかけが必要。					
		課題への対応	【今後の課題への対応】 直に学校へ足を運んで、来館を促す。					
		認知度向上（情報入手方法「新聞」の割合増加＝アンケート回答）	計画	—	—	25%	30%	
			実績	19%	23%			
			進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 新聞1面広告、新聞読者プレゼントを活用。「新聞で知った」の割合が元年度の19%から2年度はアップ				
			今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 展覧会広告は新潟日報社の自社広告扱い（無料）なので掲載日を指定（設定）できない。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 普及活動としての有料広告出稿を活用する。							

改善指示事項		不良在庫について、評価基準や会計処理基準を明確化することで、貸借対照表の評価を切り下げるなどの対応が必要である。						
改善のために取り組んだ内容		色紙、図録等は普及材として活用することで、在庫を徐々に減らしていく。担当税理士事務所もその考えでいくことを了承。						
取り組みによる成果		2年度末、奈良薬師寺に八一短歌の色紙500枚贈呈						
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E	
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
		色紙在庫削減 (販売以外)	計画	—	—	400枚	400枚	
			実績	—	500枚			
		進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 計画していなかったが、薬師寺の施設完成を祝う名目で500枚贈呈。					
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 寺院に関連する短歌の色紙は贈呈しやすいが、それ以外の色紙の贈呈先の選定					
		課題への対応	【今後の課題への対応】 3年度は法隆寺、東大寺を対象に贈呈を進める。					
		図録・書簡集の 在庫削減（販売 以外）	計画	—	—	中学校60校400冊	400冊	
			実績	—	高校30校180冊			
			進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 図録も普及材として手始めに高校に贈呈（3年度、30校へ各6冊）				
			今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 寄贈先の発掘、選定				
課題への対応	【今後の課題への対応】 まずは市内中学校に順次贈呈を進める。図録は学校への寄贈とするほか、関係する個人・団体、図書館等への寄贈も。							

改善対応区分
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B:改善の取組の効果が始めている
 C:改善の取組に着手
 D:改善の取組に向けて検討中
 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

今後改善を要する事項		展示室が1室である。(廊下にも展示できるが)1室というのは内容は別として「ここだけ?」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい。				
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	ビデオルームを展示スペースとして活用。常にここに作品を置くことにした。				
	取り組みによる成果	展示室にとどまらない施設一体的な作品紹介を展開				
	改善・対応区分	A	B	● C	D	E
	実施事項	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	展示の充実	計画	常設的展示の模索	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示
		実績	困難	達成		
	進捗状況	【令和2年度までの達成状況及び今後の見込み】 會津八一研究を含む書家の館長が就任。資料はあくまで資料に過ぎないという考えから書作品重視の展示になってきている。				
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 八一作品のうち、館長の目利きによる「名品」を展示。					
課題への対応	【今後の課題への対応】 「名品50選」を令和3年度内発刊予定で、これをもとに名品展を実施する。					

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	時として「公益事業」において黒字を発生させ、逆に県からの指導を受けるほど。書籍・文房具販売、鑑定料収入などの「収益事業」はなかなか黒字化できない。飛ぶように売れる商品（ヒット商品）はそう簡単には生み出せない。
団体の自立性	地元新聞社、放送局、美術振興団体から寄付を受け、あるいはそれら機関・団体に役員や運営委員等は委嘱しているが、事業内容、組織についてはすべて財団独自に計画・運営している。
経営の効率性・適正性	事業内容に比して少人数と思われる4人の職員で運営している。
その他	

【新たに改善を要する事項】 ※「6. 経営改善状況」に記載のもの以外で改善を要する事項を記載

今後改善を要する事項					
評価 指標	実施事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	計画				
	実績				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】			
	課題への対応	【今後の課題への対応】			

【団体による総括的な評価】

令和2年度（数字・実績）については新型コロナウイルスの発生と収束の見通しのないことによる影響が大きかった。その中で、書家でもある館長の連続講座という新機軸を打ち出して書愛好家へのアピールを図った。聴講希望者が定員を上回る人気ぶりだ。シンボルマークの公募は全国のデザイン関係者に新潟と會津八一の名を知ってもらう機会ともなった。職員は公民館講座や小学校への出前講座等に積極的に応じ、市の文化教養環境の向上に資する役割を担っている。数多い収蔵品は貴重な財産であり、購入や寄贈によって厚みを増しているが、八一作品をどう見せるか、展覧会の回を重ねてきているだけにその見せ方（テーマ）が難しい。図録等の在庫は寄贈によって減らしていく道筋を見いだした。2年度、中学校60校への直接の呼びかけが実現できなかった。児童生徒への呼びかけが足りないと反省しているが、来館に結び付く決定的な方法がなかなかみつからない。

【所管課による評価】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、来館者数が少ない一年だった。しかし、過去の人気のあったイベントの動画配信など新しいことにも挑戦し、また来館者アンケートからも高い満足度を維持しており、努力がうかがえる。今後も厳しい時期は続くが、経営改善に一層努力するよう働きかけていく。
